

人文学基礎（人文学と対話）第1回

イントロダクション+
対話とは何をするのか？

主担当教員：高橋 綾（人文学林 講師）

副担当教員：火曜 菅原裕輝先生（人文学林）木曜 西村高宏先生（人文学専攻）

TF：火曜 陳凱歡さん（言文） 水曜 村井勇輝さん（外国学）

TA：火曜 チョスンヨンさん（日本学）水曜 春川千潮さん（言語文化学）

木曜 阿部悠太さん（人文学）・泊慎太郎さん（日本学）

この回の授業の目的と内容


【目的】

人文学基礎（人文学と対話）の授業の位置づけ、学習内容や目的、参加や評価のしかたなどについて理解する

この授業で行っていく〈対話 Dialogue〉についての考え方について理解する

【内容】

1. 授業についてのイントロダクション（25分）
 2. ミニレクチャー：〈対話 Dialogue〉とはなにをすることか（20分）
 3. 対話型ワーク①
：自分について他の人に知ってもらおう（コミュニティをひらく）（45分）
- ※（事後学習）ふりかえりシートについての説明動画を視聴し、現段階での自分の対話・探究についての態度・ちからを自己評価、記録してみよう



1. 授業についての イントロダクション

授業の位置づけ |

- ◆秋学期1限（8:50-10:20）火～木曜に開講される、人文学研究科の博士前期課程新入生（M1）向けの研究科共通の必修の授業
必修のため、授業担当・大学教務のほうで、クラス分けをし、それに基づきKOANにも履修登録をしています
- ◆この授業の単位が取れなければ、人文学研究科の博士前期課程を修了することができません
- ◆なんらかの事情で秋学期にこの授業の単位が取れなかった場合には、今年度冬学期（火6限）あるいは来年度に同じ授業をもう一度受講してもらうことになります

授業の位置づけ II

◆大阪大学人文学研究科・人文学林では、みなさんの専門分野での学習・研究内容に付加価値を与える、高度教養力・汎用力 transferable skills を養うための「研究科共通科目（人文学林科目）」を設けています。（1）の2科目とともに（2）（3）などをあわせて履修することで相乗効果が見込まれます

（1）【必修】人文学基礎：人文学と対話、現代の教養（春学期受講）の2科目からなる

（2）【選択】デジタルヒューマニティーズ：最先端の情報技術と人文学研究の関わり

（3）【選択】人文学実務研究・インターンシップ：人文学を学んで、社会や企業で活躍する

授業の内容・目的（一度はシラバスに目を通すこと）

- ◆現代において、人文学を学び、研究する人に必要とされる 〈他者と対話し協働する力〉 を身につけるために、対話 Dialogue と協働の探究 Co-inquiry を体験しそのスキルを養います。また、現代における人文学の課題（人文学と社会、デジタル化と人文学、人文学と共生や人権など）について小グループで対話と探究を行います。
 - ◆授業の学習は （1）事前学習動画＋（2）授業時間内の受講者同士の対話 でなされます
 - 事前学習動画：対話についての考え方・スキル、現代における人文学の課題に関する知識を得る
 - 授業時間内：事前学習をもとに、専門分野や属性、文化的背景が異なるクラスの受講者とのグループワークで対話と探究を行う
- これによって、人文社会科学や自然科学等、他の学問領域の専門家、市民や地域コミュニティのアクターと〈対話し協働する力〉が身につくこと、現代における人文学研究・人文学的実践のあり方について自分なりの意見を持つこと、が期待されています

授業の参加のしかたについて！

- ◆ Zoomを使用する、オンラインでの参加・対話型授業です。カメラは授業時間中常にオン、マイクは常にミュートを外して話すことのできる状態で参加してください。カメラ、マイク両方オフでの受講・聞くだけの参加は出席とはみなしません。（体調不良で画面を見ることができない場合は申し出ること）
- ◆ パソコンかタブレットで授業のZoomのURLにアクセスをしてください。スマートフォンでの参加はワークへの十全な参加に支障をきたすため認めません。特に移動しながらのzoom入室は危険なので不可とします。
- ◆ 授業開始後30分以上たって（9:20以降）Zoomに入室した場合は遅刻（0.5回欠席）とみなします。同様に、授業終了まで30分以上ある時点で退出した場合は早退（0.5回欠席）となります。
- ◆ 3回以上授業を欠席をすると成績評価の対象になりません。病欠（通院・入院）・忌引き等は欠席とはみなさない配慮の対象ですが、必ず事前事後に高橋：aya.takahashi.hmt@osaka-u.ac.jpまで連絡してください。欠席としない配慮をする場合には、原則小レポートと証拠書類の提出を求めます。教育実習など配慮の対象となる理由で、3回以上欠席の可能性のある人は、事前に申し出てください。
- ◆ 授業を受講する前に、事前学習として、当日の授業内容に関連する事前学習動画の視聴を課します。次の授業の事前学習動画は、遅くとも前週後半（金曜日）には各クラスのCLEにアップされますので、必ずそれを目を通し、求められている課題をしてから授業に参加をするようにしてください。
- ◆ 留学生の方、日本語が母語でない方は、上手に日本語を話せなくても大丈夫ですので、なるべく積極的に話し合いに参加してください。また、説明や他の人の発言等でわからないことがあれば「わからない」と伝え、相手に質問をしたり、説明してもらおうようにしてください。

授業の参加のしかたについて II

◆この授業は、〈他者との対話〉を行うことが目的の授業で、本来は対面が望ましいですが、便宜上オンライン・Zoomを用いています。オンラインの一方向の講義とは異なり、この授業ではオンラインでも「他人とコミュニケーションする公の場」であるため、自分の家から参加する場合でも、対面で他人と話す時の最低限の礼儀や気配りを持って参加しましょう。

- ・ 教員・他のグループメンバーに理由を告げずに、カメラオフ・席を立つことはしないでください。理由を伝えずにカメラオフ・中座を頻繁にする場合は、授業の参加態度に問題があるとみなすことがあります。
- ・ 他の人の話しやすさを考え、なるべく画面に自分の顔が全部映るようにしてください。顔の一部しか映らない場合や顔が暗くて見えない場合、話し手が聞いてもらえているという安心感を持ちづらくなります。
- ・ 自宅から参加する場合、授業内容以外の私的な用事を授業時間内にするのはやめてください。トイレやチャイムが鳴っての中座、ペットや周囲の人が画面に映り込むこともなるべく起こらないようにしてください。
- ・ 受講者のみなさんが話すことも多いので、喉を潤すため授業中に飲み物を飲むことは可とします。食べ物は不可です。

よくない映り方

頭の上と天井（照明）
しかカメラが捉えていない
逆光で表情が見えない



よい映り方

胸から頭の先までカメラ
が捉えている
表情や動きが見えやすい



鈴木敏恵「オンライン授業事前チェックシート」より

https://jnapcdc.com/LA/onlinelec_3/

【参考】大学のキャンパス内から受講したい人のWifiアクセスポイント

大学から授業を受ける人のwifiのアクセスポイントは以下の通りです。いずれの教室も、wifi（基本ODINS）が使えるので、基本的には自分でパソコン・タブレット・イヤフォンなどを持ってきて接続してください。

【豊中キャンパス】

- ・言語文化学棟 A棟3階講義室、A棟3階演習室3（ODINSではない、言文専攻で登録者のみ使える）
- ・芸術研究棟 1階 芸2講義室
- ・共通教育C棟 S4教室

【箕面キャンパス】

- ・箕面キャンパス 513講義室

【注意点】

上の教室や研究室などからzoomに入る場合で、他に使用している人が同じ部屋にいる場合は、授業の内容が聞こえないようにイヤフォンやヘッドセットを使用するのがマナーです。また、発話（マイクオン）が必要な授業ですので、なるべく周囲の音環境がよい、静かなところから入室ください。外部・環境音についてはzoomのオーディオの機能で外部・環境音のフィルタリングがある程度は可能です。

評価について

- ◆評価は、授業への参加度30%、授業を通じての達成度40%、最終レポート課題30%で行います（毎回出席、受講態度が良好であり、最終レポートを提出すれば成績はつきます。）
- ◆グループワークへの達成度の評価の観点は、
 - (1) 専門分野や考え方、文化的背景が異なる他者を尊重し、協働的な対話的關係性を築くことができる
 - (2) 他者に対して積極的に質問し、自他の考えへの理解や気づきを深めることができる
 - (3) 具体的な事柄について問いを立て、対話のなかで問いを共有し、協働の探究を行うことができる

についての自己および教員の評価です

- ◆特に達成度については、授業後、CLEに提出してもらおう「**ふりかえりシート**」にそれぞれの受講者が記入した内容とその変化が採点の材料となります

詳しくはふりかえりシートについての動画（CLEに掲示）参照、第一回の事後学習としてこの動画を視聴し現段階の状態の自己評価でふりかえりシートを記入して提出してください



2. 〈対話 Dialogue〉とは なにをすることか



高橋（専門：臨床哲学、哲学対話／
対話と協働の探究の教育実践と研
究）の行っている対話

右上：美術館での対話型鑑賞

右下：少年院での対話

左下：医療現場・職場での対話研修

左上：がん患者・家族と対話



対話 Dialogue とは何をすることか

- ◆ここで紹介する〈対話 Dialogue〉とは、関係性や組織、社会を作る際の新たな理念、手法である。
〈対話 Dialogue〉≠ 会話 Conversation、議論 Discussion、討論 Debate、論証 Argumentation
〈対話〉の大きな目的は「対等で、ちがいや多様性を相互に尊重する関係、全員が主体的に関与できる関係性をつくること」
※〈対話〉は欧米由来のコンセプトであるが、多文化社会におけるグローバルスタンダードになりうるコミュニケーションスタイルだと考えられる。
ただしコミュニケーションのあり方は文化によって異なるため、自分や自文化のコミュニケーションスタイルの前提とどう違うかも考えてみるとよい
- ◆話すことではなく〈聴くこと〉、〈聴きあうこと〉からはじまる
上手に話すことや、合意や問題解決のための話し合いではなく、自分とは異なる感じ方、考え方をする他者と〈出会い〉、ちがいを理解、尊重しつつ〈ともにいる（共生）〉こと
- ◆対話は言葉だけではなく、身体や感情も総動員して（それらにも注意を向けて）行われるFace (s) to Face (s) のコミュニケーションである →オンラインでの〈対話〉では、なるべく身体を動かして反応しよう！
- ◆対話とは、「言葉を使った協働作業」である
対話では、みんなの考えが、同じになることでも対立することでもなく、「違っていてもよい」「違っていても、一緒に考えられることがある」と思えることが重要
- ◆対話とは、相手との対話であると同時に自分との対話（自分に向き合うこと）でもある
対話の中では、自分が感じ、考えていることに気づいており、率直にそれを話すことや、無意識に当たり前とっていたこと（前提）にあらためて気づくこと（セルフアウェアネス）が必要である



対話の理念としての 〈セーフな探究のコミュニティ Safe Community of Inquiry (SCol)〉

- ◆ SColは、〈こどものための哲学 (philosophy for children, p4c)〉と呼ばれる活動の実践者であるハワイ大学のT.ジャクソンさんによる対話実践に由来する
- ◆ p4cは対等な関係のなかで大人とこども、こども同士が共同で考えることを行う対話・探究型、学習者中心の学びの形態である
- ◆ 世界各国で、それぞれの文化や教育状況に合わせてp4cの実践が行われているが、ジャクソンさんは、ハワイの多文化社会において、欧米型の〈議論 Discussion〉ではなく、ケアリングとインクルージョンを重視した〈対話 Dialogue/Safe Community of Inquiry〉を実践している

セーフな場から始まる対話 3つのSafety※1

私たちが自分とは違う他者と関わり、話をしようと思えるためには、自分がいてもいいと感じられ、自分の表現が受け止められる安全な場であることがまず重要

- ◆ Physically Safe：物理的、身体的におびやかされていないこと
 - ◆ Emotionally Safe：感情的な面でおびやかされていないこと、否定や評価をされずにまず聴く、聴いてもらえること（聴くこと、聴くときのセーフティ）
 - ◆ Intellectually Safe：正解や言わなければならないことを言う、思っているとも言えないことがあるのでもなく、一個人として感じていることや言いたいことを率直に話すことができる、言いにくいことも言いあえる関係（話すときのセーフティ）
- * セーフティ、セーフな場とは、違和感や傷つきがないように「空気を読み」、互いに自己防御する関係（Security）ではなく、違和感や傷つきがあったときにも自他を信頼し、率直かつ適切にそれを話せること、さまざまなちがいに寛容でインクルーシブな場のことである
- * 対話においては、自分が感じ、考えていることに気づいており（セルフアウェアネス）、それを適切に表明できること（アサーティヴネス）が重要である
- * このようなセーフな場、コミュニティは、誰かがルールを作り守らせるものではなく、参加者全員が努力して作っていくものである

※1 T.Jackson, The Art and Craft of Gentry Socratic Inquiry



3. 対話型ワーク①

自分について

他の人に知ってもらおう

(コミュニティをひらく)

対話型ワーク①

自分について他の人に知ってもらおう（コミュニティをひらく）

- ◆ 対話的な関係性を築くための最初の作業です。自己紹介self-introductionや自己呈示self-presentationではなく、（リラックスして、ちょっとだけ）自己開示self-disclosureを心がけてください
- ◆ 自分が他の人とシェアしたいことを自由に話してよいが、他の人に話す時間を残すことも考えましょう
- ◆ 以下の質問に、参加者全員が順番に答えていきます（1人1~2分）

（0）自分の名前、専攻・コース・専門分野（言文専攻：分野、外国学専攻：専攻語も）

（1）この授業で呼ばれたい名前（ニックネーム）とその理由・由来

※できる人は、この授業の時は、今回決めたニックネームがZoomの名前に表示されるように変更する

（2）わたしの「トリセツ（取扱説明書）」

：一緒に対話をする人たちに、自分（自分のコミュニケーション、発言や考えるときのスタイルやくせ）について知っておいてほしいことを伝えましょう

→自分の発言が終わったら、発言者が次の人を表示されている名前で指名する。指名されて心の準備ができていない場合は、「後に回してください」と言ってください

授業についての伝達事項

- ◆ 授業の事後課題として、**ふりかえりシートについての説明動画（15分程度）を視聴し、現段階（第1回の段階）での自分の対話・探究についての態度・ちからを自己評価し、ふりかえりシートに記入、CLEで提出してみましよう**
- ◆ ふりかえりシートは、授業の内容、自分の態度を覚えているうちに作成したほうがよいので、なるべく**授業終了後3日以内に作成し、提出するようにしてください。（3日後以降でも、**次回の授業開始までは減点されずに提出することはできます。**）**
- ◆ **第2回までに視聴する事前学習動画（20分程度）**では、第2回の対話型ワークの中心となる、「**質問を通じて自他の考えを理解する**」についての解説、対話のなかで質問をする時のヒントや方向性について紹介されています。こちらは第2回の授業の開始までにかかわらず視聴してください。